

令和8年6月定例会議員提出議案目録

議第 1号 カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書

議第1号

カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書

阿南市議会会議規則第14条第1項の規定により、上記議案を提出します。

令和8年6月8日提出

阿南市議会議長 幸坂孝則 殿

提出者 阿南市議会議員

水谷 あゆみ

西川 達也

広浦 雅俊

提案理由

多様化の時代を迎え、子ども一人ひとりの主体的な学びや社会性を育む教育が重視されている。一方、各学校および教育関係機関による努力にもかかわらず、ストレスを抱える子どもたちの不登校・いじめ・自死などは増加傾向が続き、教職員の病休や早期退職者の増加、大規模な教員不足など、教育現場は深刻な課題を抱えている。

このような深刻な事態を招いた一因として、様々な社会的要請が学校教育に押し寄せ、学習指導要領の内容が増え続けてきたことが指摘されている。子どもは、登校から下校まで7時間以上に及ぶ慌ただしい日課を強いられ、教職員は、多大な業務を抱え、問題を抱える子どもに寄り添う時間や授業準備・教材研究の時間を確保できない状況に置かれている。実際、1968年に標準授業時数を国が設定する制度になって以降、今日の標準授業時数は、1日の授業時数から見たとき教育史上もっとも過積載な教育課程であり、いわゆる「カリキュラムオーバーロード」が指摘されている。現在の標準授業時数は、小学校4年生から中学校3年生までは年間1015時数、1週間平均29時数であり、ほぼ毎日6時間授業の計算となる。しかも、その中に学校行事などの特別活動の時間は含まれていない。これが、子どもたちにとっての心身の負担となり、教職員の「長時間過密労働」の一因となっていることが指摘されている。

現在、文部科学省と中央教育審議会（中教審）は、概ね10年ぶりの改訂となる次期学習指導要領の策定作業を進めており、2026年度中の答申に向けて大詰めを迎えている。国において、学習指導要領改訂に向け策定作業が進んでいることを踏まえ、子どもと教職員にかかる心身の負担を早急に軽減するため、増え続けてきた標準授業時数を削減し、子どもにとっても、教職員にとっても無理のない、豊かな教育環境の実現を進めることを求める。

カリキュラムオーバーロードの改善を求める意見書（案）

多様化の時代を迎え、子ども一人ひとりの主体的な学びや社会性を育む教育が重視されている。一方、各学校および教育関係機関による努力にもかかわらず、ストレスを抱える子どもたちの不登校・いじめ・自死などは増加傾向が続き、教職員の病休や早期退職者の増加、大規模な教員不足など、教育現場は深刻な課題を抱えている。

このような深刻な事態を招いた一因として、様々な社会的要請が学校教育に押し寄せ、学習指導要領の内容が増え続けてきたことが指摘されている。子どもは、登校から下校まで7時間以上に及ぶ慌ただしい日課を強いられ、教職員は、多大な業務を抱え、問題を抱える子どもに寄り添う時間や授業準備・教材研究の時間を確保できない状況に置かれている。実際、1968年に標準授業時数を国が設定する制度になって以降、今日の標準授業時数は、1日の授業時数から見たとき教育史上もっとも過積載な教育課程であり、いわゆる「カリキュラムオーバーロード」が指摘されている。現在の標準授業時数は、小学校4年生から中学校3年生までは年間1015時間、1週間平均29時間であり、ほぼ毎日6時間授業の計算となる。しかも、その中に学校行事などの特別活動の時間は含まれていない。これが、子どもたちにとっての心身の負担となり、教職員の「長時間過密労働」の一因となっていることが指摘されている。

国においては、子どもと教職員にかかる心身の負担を早急に軽減する必要があることから、次の事項の実施を強く求める。

記

1. 次期学習指導要領の改訂において、増え続けてきた標準授業時数を削減し、子どもにとっても、教職員にとっても無理のない、豊かな教育環境の実現を進めること

以上、地方自治法第99条の規定にもとづき意見書を提出する。

令和8年 月 日

徳島県阿南市議会

〔提出先〕

衆議院議長	森	英介	様
参議院議長	関口	昌一	様
内閣総理大臣	高市	早苗	様
財務大臣	片山	さつき	様
文部科学大臣	松本	洋平	様